

タブレットの日常 利用で実践模索

東京都多摩市立愛和小が公開研

未来社会見据えて基礎・協同学習

児童1人1台のタブレットPCと多様な人材、ICTを生かした次世代の学びを追究――。東京都多摩市立愛和小学校（松田孝校長、児童数140人）は、（公財）パナソニック教育財団の今年度特別研究指定校となり、「タブレットPCの日常化が拓く新たな教育Styleの創造」をテーマにした実践研究を推進している。タブレットPCの整備をはじめ、企業と協働してICTを活用したさまざまな授業の可能性を追究することで基礎基本の定着や協同学習の推進を図っている。さきごろ開催された「i and design」と題した公開研究会では、授業公開とICT体験講座などが行われ、日常的なICT利用におけるこれからの指導や協同学習、表現力向上の在り方などを探った。

基礎基本、表現力を高めるICT活用

同校は今春の開校以来、児童の表現力向上や協働学習に向けた授業モデルの構築」を設定。21世紀をたくましく生き抜く人材育成を見据え、いろいろな企業からの支援や指導を受けながら、ICTを日常的に活用したさまざまな授業を日々実施するための協働体制を構築している。

このような授業と取り組みの一端が「i and design」と題した同校の公開研究会で公開された。

協同で学ぶプログラミング学習

3年1組の総合的な学習では、ゲーム形式でプログラミングが学べるアプリケーションソフト「Scratch Jr（スクラッチジュニア）」を使った学習が公開された。授業者は横田雅江教諭。

このソフトは、児童向けのビジュアルプログラミング言語。タブレットPC上のアイコンやキャラクターのゲームを見せ合い、プログラミングをさらに練る

これまで取り組んできた1人1台のタブレットPC活用によるプログラミングや学級活動、算数、国語、道徳、総合的な学習といった幅広い授業を全学年で公開。

TM5(Learning Management System)を生かし、個々の児童のタブレットPC上の学習記録を教員がつぶさに確認し、評価した上で、個々の学習進度に応じた指導を生かし、それぞれの学習記録を電子黒板などで共有するより良い協同学習の在り方などを模索した。

「この犬のキャラクターの動きが面白いね」などの歓声があがる中で、児童らは意欲的に周囲にタブレットPCを手渡して交流を深め、自分が作ったゲームの良さを実感したり、仲間からのアイデアに刺激を受けたりしていた。

授業まとめで横田教諭が学習を振り返って感想を尋ねると、児童らは各自の意見を電子黒板上に一覧提示した。感想では「もっと難しいコースをつくりたい」などと、ほかの児童の工夫に触発され、プログラミング学習に、さらなる意欲を燃やす様子を見せていた。

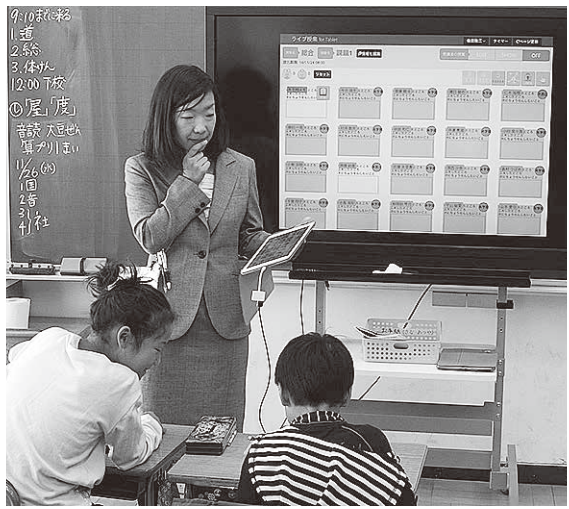
また1年1組では、タブレットPCに描いた絵をタッチペンなどを使ってビジュアル状態のままプログラミングし、簡単な動画作品が作れる「iMovie」を使った授業を展開。絵を動かすのに必要なプログラミングを指導した上で、児童に好きな絵を描かせた。その後、新たなプログラミング方法について刺激を受け、使った各児童が絵に動きを加えていった。互いの動画はプロジェクターで公開し合い、いろいろな絵を見合いながら、手を理解する」といった点を、実際の資料を提示しながら説明。その後、個々の児童のタブレットPCで実際にロイノットを使ってプレゼンテーション資料を作成させることで、相手に伝わるプレゼンの要素や構成への理解を深めさせた。

また同校のICT活用を支援する企業も加わり、公開授業で示したプログラミング学習などを体験できる講座を行ったほか、「これからの公教育を考える」を主題にしたハネルデイスカッションなども実施。「ICTの効果的な活用は、今までにない個に応じた学びを実現させる」「教員が学外からさまざまな経験と刺激を受ける機会が必要」などの意見が出る中で、今後の教員像のヒントとしていた。

そのほかにも、写真、Web情報、テキスト資料などを複数組み合わせ、ひとまとめのカード資料のように保存できるプレゼンテーションソフト「ロイノット」を使った5、6年生合同の特

プレゼンのポイントを企業人から学ぶ

そのほかにも、写真、Web情報、テキスト資料などを複数組み合わせ、ひとまとめのカード資料のように保存できるプレゼンテーションソフト「ロイノット」を使った5、6年生合同の特



同校／TEL 042（374）9881。